

2017年6月6日

名古屋市長 河村たかし様

エコミュージアム愛知 代表 高岡立明  
相生山の四季を歩く会 事務局 田中眞理  
ラブリーアース Japan 事務局 古川善嗣  
名古屋市南区豊 4-22-10 tell/fax 052-821-6463

### 相生山の生態系を維持するための提案書

1. 「緑地整備案の検討」において、生態系維持のためのシステム（体系、しくみ、ルール、組織など）づくりを基本計画の優先課題とすること。

たとえばヒメボタルの時季、相生山緑地を訪れる人は宵から明け方まで、今年も週末には数百人規模に達しました。人々が自然への関心を深める良い機会である反面、森の生きものたちには多大なストレスを与えていると推測されます。

市道「弥富－相生山線」建設は中止になりましたが、生態系への脅威は増加し続けています。しかし、これまでの資料や会議記録には、こうしたことの記述はありません。「これからは自然を大事に」の市長判断に基づき、早急な対応が望まれます。

生態系が壊されている具体的事例をいくつか列記します。

(1) 緑地全域でのヒメボタルの数は20年前に比べて明らかに減少しています。人的要因と思われます。さらに、最近の撮影目当ての入り込みはオーバーユース状態にあり、その影響が懸念されます。

(2) この1～2年に限っても、ムベ・アマヅル・カラタチバナの3種が消失し、シュンランは激減しています。ムベとシュンランは盗掘によるもの、アマヅルは散策路の付け替えによるものと推察されます。

(3) 散策路沿いのクロミノニシゴリは何度もくり返し伐採されています。樹種も分からぬままに、あちこちで木を伐り続けている人びとがいます。

(4) 人の踏み込みによって散策路幅が広がったり、新しい「道」がつくられたりしています。

2. 生態系をこれ以上壊さないため、至急対策が必要です。前項のシステムができるまでの暫定的措置として、公報やマスコミなどを通じて市民に協力を呼びかける、巡回体制を強化する、場合によっては立ち入り制限するなど有効な手立てをとること。

世界の「A I O I YAMA」を実現するには、避けては通れない課題に対する提案です。ご検討をお願いいたします。

以上